

製品名: CDK5RAP3 ウサギモノクローナル抗体**カタログ番号: AMRe85235**

研究使用のみ

概要

説明	組換えウサギモノクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,IP
反応性	ヒト、マウス
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	モノクローナル
形態	液体
濃度	-
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	0.05% アジ化ナトリウム、0.05% 保護タンパク質、50% グリセロールを含む TBS で精製された抗体。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:1000,IHC 1:50-1:100,IP 1:10-1:20
分子量	Calculated MW: 57 kDa; Observed MW: 70 kDa

抗原情報

遺伝子名	CDK5RAP3
別名	C53; IC53; LZAP; HSF-27; MST016; PP1553; OK/SW-cl.114
遺伝子 ID	80279.0
SwissProt ID	Q96JB5
免疫原	ヒト CDK5RAP3 の合成ペプチド

背景

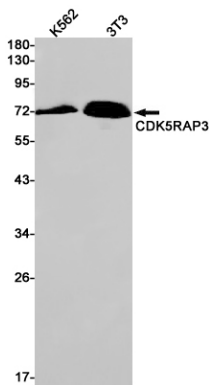
当初、細胞増殖を制御する CDK5R1 相互作用因子として同定された腫瘍抑制因子と考えられる（PubMed:12054757,

PubMed:12737517)。RELA リン酸化の制御を介して NF- κ B を介した遺伝子転写を負に制御する (PubMed:17785205, PubMed:20228063)。また、有糸分裂 G2/M 期移行チェックポイントおよび有糸分裂 G2 期 DNA 損傷チェックポイントも制御する (PubMed:15790566, PubMed:19223857)。CDKN2A/ARF および MDM2 との相互作用を通じて、MDM2 依存性の p53/TP53 のユビキチン化、安定化、および核内活性化を誘導し、G1 期細胞周期の停止と細胞増殖の抑制を促進する可能性がある (PubMed:16173922)。小胞体ストレスに対する複数のタンパク質のウミ化を媒介し、小胞体ストレス応答において役割を果たす可能性がある (PubMed:23152784)。また、アポトーシスにおける核膜破裂にも関与する可能性がある (PubMed:23478299)。PPM1D/WIP1 による脱リン酸化を制御することで、MAPK14 の活性を制御する可能性がある (PubMed:21283629)。

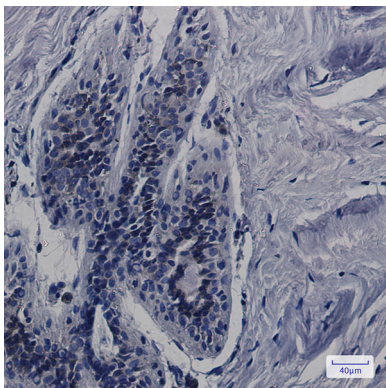
研究分野

-

画像データ



CDK5RAP3 抗体を使用した K562、Hela 溶解物中の CDK5RAP3 のウエスタン プロット分析。



CDK5RAP3 抗体を使用したパラフィン包埋ヒト乳がんの免疫組織化学分析。抗原賦活化には高圧高温クエン酸ナトリウム pH 6.0 を使用しました。